

皆さんは「あの人はスマートだね」と聞いたたら、どういう人をイメージしますか。私の母などは「スタイルが良いこと」を指して使っていたように記憶しています。さまざまな機能を有する電話機をスマートフォンと称するように、つまり冒頭の言葉は英語でいうと「あの人は優秀だね」となります。

農業分野においてもロボットやAIなど、先端技術を活用した農業をスマート農業といい、現在、新しい技術による農作業の省力化や高度化が進められています。先日も市内農協に無人トラクターと生育状況を自動判定するドローンが導入され、人手不足への対応や生産性の向上などの課題解決につながることが期待されています。

農業には気象情報は不可欠です。今から132年前、帯広市の開拓の始まりと同時頃、帯広測候所が晩成社の草小屋を借りて始めた気

象観測は、今ではスマートフォンアプリで1キロ四方ごとの気温や降水量などを知ることができるよう「デジタルアメダス」として道内で先行運用されるなど、気象観測技術も急速に進化しています。

近年、世界中で頻発している災害や気候変動、そして国家間の紛争など、将来的な食料の安定供給を脅かす出来事を目にするようになり、多くを輸入に頼っている日本の「食」をいかに守っていくか、今「食料安全保障」の重要性が高まってきています。言うまでもなく十勝・帯広は国内農業の中でも大きなシェアを持つ食料基地です。この強みを最大限に生かし、スマート農業などの最先端技術を積極的に取り入れることは、人口減少下にある日本の食料生産において大きなインパクトとなります。

また、高速道路が十字に交差する位置にあり、かつ津波のリスクが少ない十勝・帯広は、インランド・デポ（港から離れた内陸部の物流基地）としての優位性もあります。最新技術を取り入れた高度な農業に災害時にも対応可能な備蓄、加工、物流の機能がつながること、十勝・帯広は、日本、さらには世界が抱える課題の解決に貢献できる地域になっていけると考えています。

そして何よりも「わが国の食を支える」という責務と矜持（きやうじ）を持ってチャレンジする人たちが増えていくことで、前向き感が生まれ、地域全体の魅力がさらに増していくように思います。

十勝・帯広には食と農の最先端がある。この地を世界から必要とされる、未来に向けた存在感ある地域にしていきたいと思っています。

市長コラム

夢かなうまち
おびひろ

日本の食を支える

帯広市長 米沢 則寿



動物園のいまをお届け

ZOOレター

ここにいます！

オシドリ

ばん馬

今月は オシドリ



「おしどり夫婦」といえば、仲睦まじい理想の夫婦を連想しませんか？

ところが実際のオシドリの世界では1年でペアを解消し、毎年新しいパートナーをめぐる激しい戦いがオスたちの間で繰り広げられています。

オシドリの繁殖期である秋から春にかけて、オスは色鮮やかな姿になります。メスと別れる春以降、次第に地味な姿に変わっていきます。



おびひろ動物園の動物たちの写真を大募集！

動物園長と広報担当で厳選し、魅力的な写真を当コーナーで紹介します。次回（1月号）の動物は「ばん馬」です！

応募方法「#広報おびひろZOOレター」を付けて、Instagramに投稿するか、WEBフォームから応募してください。photo@city.obihiro.hokkaido.jpに画像（5MB以内）を添付して送ることもできます。

Instagram QRコード

WEBフォーム

締め切り 11月28日(木)

WANTED

おびひろZOOレター

※提供された写真は、次回のZOOレターで紹介したり、市の広報物などに使用場合があります。その場合、個別にお知らせはしません。写真に関する問い合わせは、広報広聴課へ。

広報広聴課職員が行く！

オビヒロカメラレポ

OBIHIRO CAMERA REPORT

おびひろ健康まつり

「もしも」に備える健康づくりをテーマに第39回おびひろ健康まつりを開催しました。

子どもからお年寄りまで多くの人が訪れ、血管年齢測定などで体の状態をチェックしたり、体操で体を動かしたり、パネル展示を見て回ったり、思い思いに楽しく健康について学ぶ姿が見られました。

講演会では、能登地震支援に派遣された医師から災害医療について説明があり、災害に備えて、備蓄品には水や食料と併せて常備薬なども用意してほしいと話されていました。

参加された方には、「もし病気になったら…」「もし災害が起きたら…」など改めて考える機会になったのではないのでしょうか。（9月1日、保健福祉センター）



ラリー北海道2024

自動車の国際ラリーイベント「ラリー北海道2024」が9月6日からの3日間、十勝を舞台に開催され、国内外から訪れた多くの観客や関係者などで盛り上がりしました。

初日に帯広駅前で行われたラリーショーでは、実際に競技で使うラリーカーを間近に、会話をしたり、サインを貰ったりするなど、選手たちとの触れ合いを楽しむことができました。2日目の競技では、十勝の雄大な自然を駆け抜けるラリーカーの迫力と選手の運転技術に、多くの拍手と歓声が上がりました。（9月6日～8日、帯広市ほか）

